

サステイナブルなひと、

生活クラブ

10のThink & Act

01:食の安全にこだわります。 1

- 食品添加物 ● 農薬の削減 ● 放射能対策

02:健康な食べ方を大切にします。 2

- ビオサポ ● SNS

03:国内自給力アップをめざします。 3

- 国産比率 ● 飼料用米

04:遺伝子組み換え作物を認めません。 4

- GM対策

05:有害物質ゼロをめざします。 5

- 無添加包材 ● せっけん

06:自然資源を大切に使います。 6

- CO₂削減 ● 節電

07:ごみの削減に取り組みます。 7

- ごみ削減

08:原発のない社会をめざします。 8

- 創エネ

09:おたがいにたすけあう社会をめざします。 9-10

- 09-1: ● エッコロ制度 ● 共済制度 ● 共済事業 09-2: ● 福祉事業 ● 復興支援

10:自分たちで決めて、自分たちで行動します。 11

- 自主監査 ● 生産者交流会

データページ 数字で見る動向と推移 12-13

● DATA1 数字で見る組合員の動向と推移

- 組合員数の推移 ○ 業態別組合員数の推移 ○ 供給高・供給実績 ○ 業態別供給高・供給実績 ○ 出資金推移

● DATA2 2015年度生活クラブグループの福祉事業の規模とひろがり

- 事業所数 ○ 利用登録者 ○ 働くメンバー ○ 事業高

食の安全にこだわります。

01

生産から廃棄まですべての過程において、添加物や残留農薬をできる限り減らすなど、安全性にこだわります。また、徹底した放射能検査を実施します。健康や環境に与える影響についての情報を積極的に公開します。

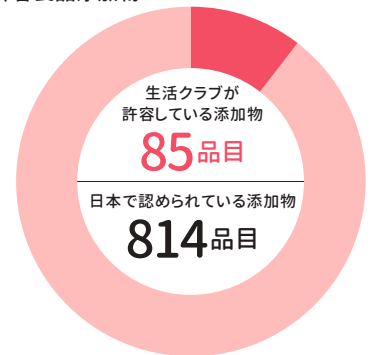
食品添加物

許容している食品添加物は85品目

生活クラブでは、「疑わしいものは使用しない」「不要なものは使用しない」「使用したものはすべて公開する」を原則に、食品添加物を減らしてきました。国が使用を認めた食品添加物814品目のうち、生活クラブはわずか85品目にまで削減しています。

※日本で使用が認められている食品添加物は製造、輸入、使用、販売等の規制対象(指定対象)となる「指定添加物」「既存添加物」と、指定対象外の「天然香料」「一般飲食物添加物」に分類されています。

・許容食品添加物



添加物の品目数は、2015年9月18日現在

農薬の削減

毎年すすむ農薬の削減

生活クラブでは、残留農薬は国の基準の1/10未満を目標とするなど独自の厳しい農業基準を設けています。残留農薬検査を定期的実施し、毒性の強い農薬を「削減指定農薬」と位置づけて削減をすすめています。また、産地ごとの農薬削減の進捗状況を組合員と共有しています。これらの情報はすべて公開しています。

・残留農薬の基準目標



2016年7月末現在

削減指定農薬 生産者と生活クラブが優先的に削減しようとしている農薬のことで、以下の性質があるものです。

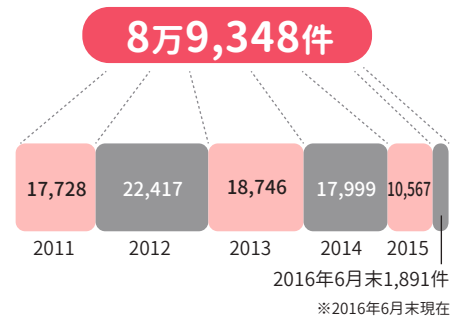
- 国が毒物に指定する農薬
- 国が水質汚濁性農薬と指定した農薬
- 発がん性、および発がん性の疑いがある農薬
- ダイオキシン含有の報告がある農薬
- 環境ホルモン*の疑いがある農薬

※環境ホルモン：環境中に放出された化学物質で、体内に入ってホルモン系の内分泌をかく乱する物質。ごく微量でも影響を及ぼす恐れがあり、「外因性内分泌かく乱物質」とも言われます。

放射能対策

3.11原発事故以来つづけてきた放射能検査は8万9,348件

生活クラブでは2011年3月11日の東京電力福島第一原発事故直後から徹底した食品の放射能残留検査を積み重ね、その実績をもとに独自の厳しい自主基準を設定しました。そして、検査実績を積み上げるとともに、検査環境の整備や検査スキルの向上など、毎年対策を進化させてきました。



(単位：ベクレル/kg)

生活クラブの放射能対策は基準値を半分以下に引き下げ

子育て世代が抱いている放射能汚染に対する不安にきちんと向き合い、高感度の放射能検査に対応するため、2016年度からゲルマニウム(Ge)半導体検出器を導入し、検査体制を拡充しました。

生活クラブの自主基準(2016年4月)		
区分	検出下限目標値(3)	基準値
「すくすくカタログ」掲載食品(乳児用食品含)※2016年6月供給から	1	不検出
飲料水(1)・牛乳(原乳)・米	1	5
鶏卵・鶏肉・豚肉・牛肉・乳製品	2.5	10
青果物(2)・魚介類・加工食品	6	25
生椎茸	10	50

(1)飲料水には、国の基準と同じ「緑茶」だけでなく、「麦茶」や「抹茶」などの茶類を含みます。
(2)「青果物」には、「生椎茸」を除く「きのこ類」を含みます。
(3)検出下限値を目標としている理由は、測定する消費材の比重などにより、検査結果にバラつきが生じるためです。

健康な食べ方を大切にします。

02

感謝とともに自然のいのちをきちんといただき、明日への元気につなげるために。食材の栄養や調理、食べ方についての知識や技術をみんなで共有し、食のアイデアを出しあいます。

バイオサポ

生活クラブの健康な食デザイン「バイオサポ」を提案

健康で生き生きとした暮らしのために、安全性に配慮した食品を使い、栄養バランスのとれた食べ方を提案する生活クラブの健康な食デザイン「バイオサポ」という活動が、2014年1月からスタートしました。「生活クラブ-食べるカタログ」やWEBサイトで、1日の栄養バランスを考えた朝・昼・夕3食の「バイオサポ献立」や基礎的な調理技術のコツを掲載しています。

・献立提案の数



2015年度年間で316件を紹介

バイオサポとは

生命を意味する「BIO」と「美を」をかけ、生命力にあふれた健康な食生活をサポートしていくという意味の生活クラブの造語です。

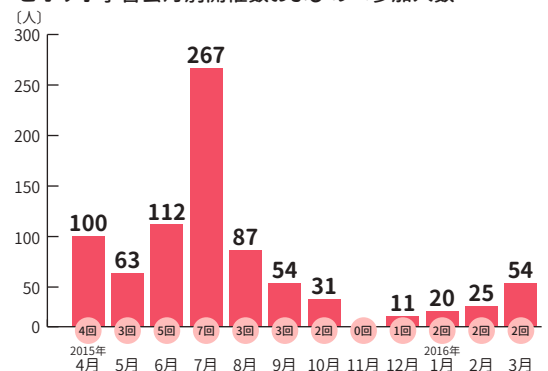


全国の生活クラブでバイオサポ学習会を34回開催

健康な食デザインを組合員が理解し日々の活動に役立てるために、生活クラブの職員が講師となり各地域で学習会を開催しています。2015年度は合計34回開催。のべ824人の参加がありました。

※バイオサポ学習会には基礎講座とバイオサポーター養成講座の2種類があります。

・バイオサポ学習会月別開催数およびのべ参加人数



SNS

「これいい♪クラブ」でくらしの知恵を共有

2014年9月から、料理のレシピや献立、少しの工夫で毎日を楽しむ生活のレシピを交換、交流するコミュニティサイト「これいい♪クラブ」が始まっています。



国内自給力アップをめざします。

03

原料や飼料の国産割合を高めることにより“生命の産業”である「農業」「漁業」「畜産」を振興します。消費者と生産者が一体となって、国内自給力の向上を図り、食の自立・健康増進・地域環境の保全に取り組みます。

国産比率

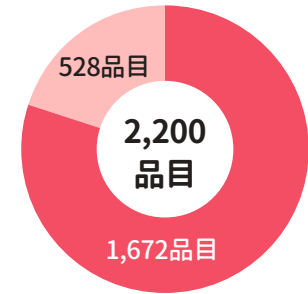
1,672の加工食品が 国産原材料比率80%!

生活クラブの消費材の加工食品について国産原材料の使用割合を調査しました。2,200品目のうち、1,672品目が国産原材料を8割以上使用していることがわかりました。

消費材とは

生活クラブでは、取り扱う食品や生活用品を、利益を得ることが目的の「商品」ではないという意味を込めて「消費材」と呼んでいます。

・加工食品の国産原材料の使用割合



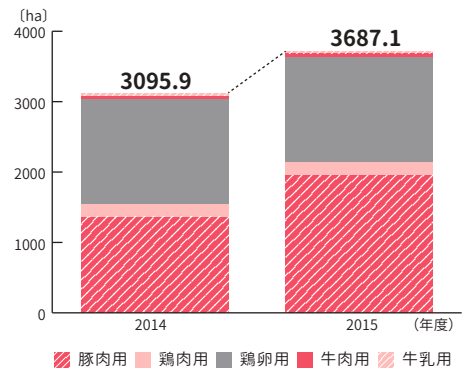
■ 国産比率80%以上 ■ 国産比率80%未満
2014年度調査

飼料用米

飼料用米の作付面積は約2割増

国内で飼育されている豚や鶏などの飼料の9割以上は、輸入に頼っているのが現状です。生活クラブでは飼料でも自給力の向上をめざして、豚や鶏に与える飼料用の米や稲の生産を提携生産者とともにすすめてきました。生産地域での横断的な協議の場を活用し、水田を中心とした耕畜連携を推進。2015年度の生活クラブ畜産生産者向けの飼料用米作付面積は前年比約2割増、特に豚肉用で大きく伸長しました。

・飼料用米の栽培面積



■ 豚肉用 ■ 鶏肉用 ■ 鶏卵用 ■ 牛肉用 ■ 牛乳用

自給力の向上をめざし、TPPに反対しています

日本の食と暮らしと命を守るために、生活クラブは一貫してTPPに反対の立場を表明してきました。2015年6月22日に開催された2015年度第26回連合会通常総会において、特別決議「**TPPの締結・批准に反対し、生産者との提携関係を強めて自給力の向上をめざします**」を採択しました。

※TPP=Trans-Pacific Strategic Economic Partnership Agreement 環太平洋経済連携協定

「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」の活動に参加

2015年5月15日「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」が東京地裁へ訴状を提出しました。1,063人の市民が原告となり、157人の弁護団とともに日本政府に対する集団訴訟が始まっています。生活クラブ連合会は賛助団体となっています。



遺伝子組み換え作物を認めません。

04

企業による食糧独占を招き、また生物の多様性を破壊する遺伝子組み換え作物を認めません。食料、飼料、添加物においても取り扱いません。やむを得ず使用する場合は情報を公開します。

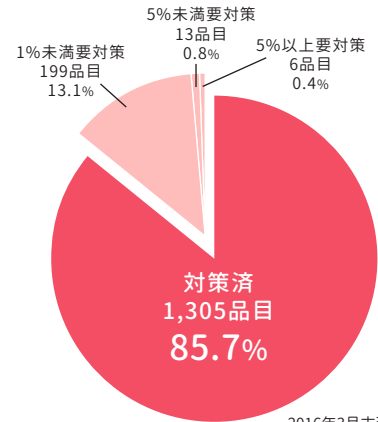
GM 対策

対象品目の85.7%、1,305品目の対策を終了

国が定めた表示制度ではGM(遺伝子組み換え)由来原料のごく一部しか表示の対象になりませんが、生活クラブでは、微量GM原材料(5%未満)にいたるまで、生産者の協力を得ながら一つひとつ非GM原料に替える対策を実施してきました。加工度の高い惣菜や菓子類などのジャンルを中心に対策をすすめ、GM原材料が使われる可能性のある品目1,523品目のうち、1,305品目の対策を終えました。

※5%以上の原料対策となっている6品目はすべて粉ミルクです。粉ミルクの独自品の開発は困難なので、主原料の原産国名やGM区分に関して情報開示をしているメーカーの製品を取り扱っています。

・GM対策状況



2016年3月末現在

カタログではマークで対策状況を開示

GM対策の状況は、対策済と要対策の2種類のマークを「食べるカタログ」やWEB注文システムに開示しています。



要対策品のほとんどは「1%未満要対策原材料」

2016年3月末現在、生活クラブでは218品目が要対策となっていますが、このうち199品目は「1%未満要対策」です。たとえば酸化防止剤のビタミンEやビタミンC、香料の抽出に使われるアルコールなど特定の微量原料に限定しています。

※右記の表示例では、原材料名などの表示枠の直下に「仕込み重量割合で1%未満の酸化防止剤のビタミンEの原材料が課題」と明記しています。

・微量GM原材料の表示例：カレールウ 甘口



原材料

ショートニング(牛肉を含む)、小麦粉、カレー粉、食塩、砂糖、野菜粉末(たまねぎ、トマト)、フルーツチャツネ、ウスターソース(りんごを含む)、ほちみつ、ビーフェキス、バナナペースト、チキンエキス、デキストリン、植物油、カラメル色素、乳化剤(レシチン)(大豆を含む)、燻辛料抽出物、酸化防止剤(トコトリエノール、V、E)

2015年度もGMなたね 自生調査を行ないました。

生活クラブでは2005年から毎年、GMなたねの自生調査や、製油所や地元の自治体への申し入れなど、自生の広がりを防ぐための活動を行なっています。2016年春には、20都道府県で489検体を調査し、25検体がGMなたねであることが分かりました。



有害物質ゼロをめざします。

05

健康や環境をおびやかす有害物質の使用・放出を減らします。
有害物質ゼロへ向けて、継続的に活動していきます。

無添加
包材

食品の包材も化学物質の無添加を追求

・添加物を可能な限り排除したプラスチック・フィルムの使用量

生活クラブでは添加物を可能な限り排除した食品包装用の「無添加追求フィルム」を開発し、その使用をすすめてきました。また家庭で使用するラップフィルムも無添加のものを開発・使用し、包装材から食品へ化学物質が移染するのを防いでいます。包装用の無添加追求フィルムの使用量は2015年度年間で約89トン、家庭用の無添加ポリラップの利用量は約57トン、合計146トンでした。



2015年度実績

無添加追求フィルム

一般的な食品包装用フィルムには、酸化防止剤、滑剤、着色剤、防曇剤など、様々な添加物が使用され、条件によっては食品に移行汚染してしまう危険性があります。しかし具体的にどの添加物が使われているかについては、ほとんど情報開示されていないのが実態です。

そこで生活クラブでは「限りなく無添加を追求した包装用フィルム」を開発し、切り替えをすすめてきました。その開発は、単層フィルムの米袋から始まり、その後、食品が触れるラミネートフィルムの最内層にも使えるようになりました。現在では222品目の包装に使用されています。

2016年3月末現在

せっけん

合成界面活性剤の排出を110トン削減

・合成界面活性剤の年間削減量

生活クラブでは、合成界面活性剤を使用しないでせっけんを使う運動をすすめています。組合員が家庭内で1年間に使ったせっけんの量から推定すると、一般的な合成洗剤を使っていたら排出されていたはずの合成界面活性剤を110トン削減できたこととなります。

※下記を参照



洗濯用と台所用洗剤の2015年度実績

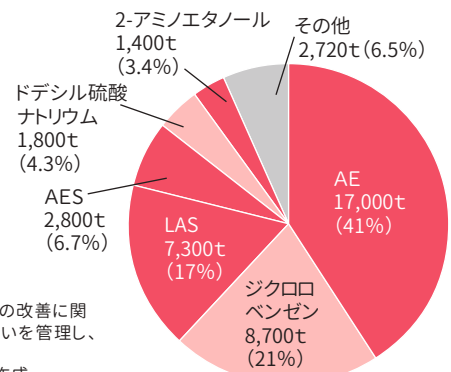
家庭から排出される有害化学物質の6割以上が合成洗剤の成分!

これは、家庭から排出される有害化学物質の排出推定量を調べた環境省のデータです。それによると、1位がAE、2位は防虫剤成分のジクロロベンゼン、3位がLAS、4位がAESでした。1位、3位、4位はいずれも合成洗剤成分。なんと、家庭から排出される有害化学物質の約60%以上が合成洗剤の成分というのが実態です。

【グラフ内の正式名称】

AE(ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル)
LAS(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)
AES(ポリ(オキシエチレン)=ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム)

・家庭から排出されるPRTR法※第1種指定化学物質の割合



PRTR法:1999年に公布された「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善に關する法律」。有害で環境を汚染している化学物質462種を第1種指定し、企業にその扱いを管理し、排出した量を毎年届出することを原則義務付けています。

※環境省HP/PRTRインフォメーション広場「平成25年度届出外排出量推計結果」から作成

2014年度実績

自然資源を大切に使います。

06

水・土壌・森林といった再生可能な自然資源を持続的なカタチで使用します。再生できない自然資源については、次世代につなげていけるよう、節減に取り組みます。

CO₂ 削減

生活クラブグループで 15,995トンのCO₂を削減

生活クラブグループは2020年度の生協事業におけるCO₂排出総量を、2007年度を基準として25%削減することをめざしています。2015年度は組合員の活動(グリーンシステム※次ページ参照)で2,825トン、グループ全体の生協事業で4,158トンのCO₂を削減し、再生可能な自然エネルギーによる発電で9,012トン分のCO₂を削減しました。合計15,995トンのCO₂は、457haのスギが1年間に吸収するCO₂量と同じです。

・生活クラブグループのCO₂削減量



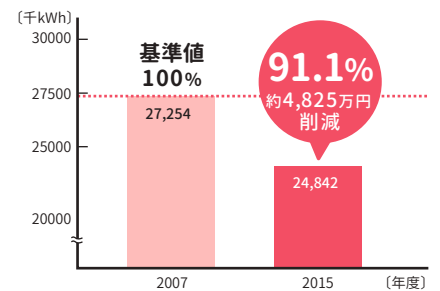
2015年度実績

節電

グループ全体での節電で 基準年度比91.1%を実現

上記のCO₂削減計画にもとづき、東京電力福島第一原発事故を契機にグループ全体で節電対策を強化しています。2015年度は基準年度(2007年度)に比べて91.1%と8.9ポイントの削減となりました。電気料金の単価を20円/kWhとして単純計算すると、約48,25万円を節約したことになります。

・生活クラブグループの電気総使用量の推移



組合員の節電活動

家庭の電気使用量の削減をすすめる「節電キャンペーン」を実施し、家庭でのCO₂排出量を簡単に計算・表示できるサイト「生活クラブのエコライフ家計簿」の活用を呼びかけています。2015年度は「節電キャンペーン」を冬場を実施し、冬の節電にチャレンジしました。キャンペーン応募者は1,531人、うち726世帯が、在住地域の平均値よりも年間で15%以上の電気使用量を削減しました。

生活クラブ エコライフ家計簿

<https://www.seikatsuclub.coop/ecolife/>



ごみの削減に取り組みます。

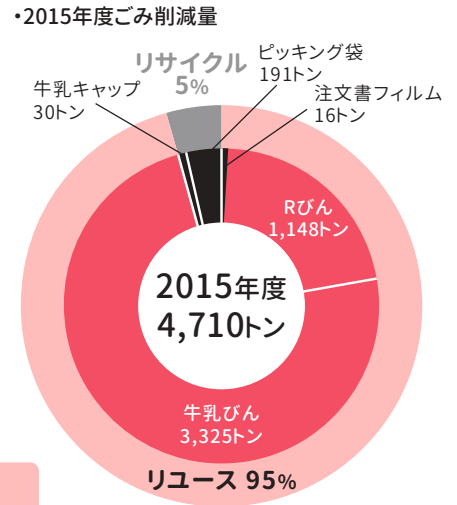
07

省資源・リユース・リサイクルを通じて、ごみの削減に取り組みます。
また、廃棄物の処分についても、より安全で信頼できる方法を選びます。

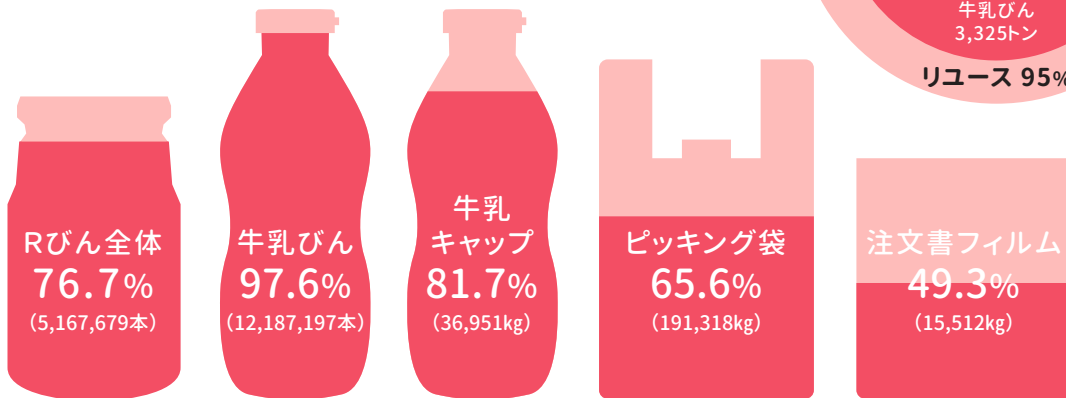
ごみ削減

グリーンシステムで 4,710トンのごみを削減

生活クラブは2015年度にR(リユース)びんや牛乳びんのリユース回収で4,473トン、牛乳キャップやピッキング袋のリサイクル回収で237トンの合計4,710トンのごみを減らしました。リユースしたびんの総本数は1,735万4,876本におよびます。

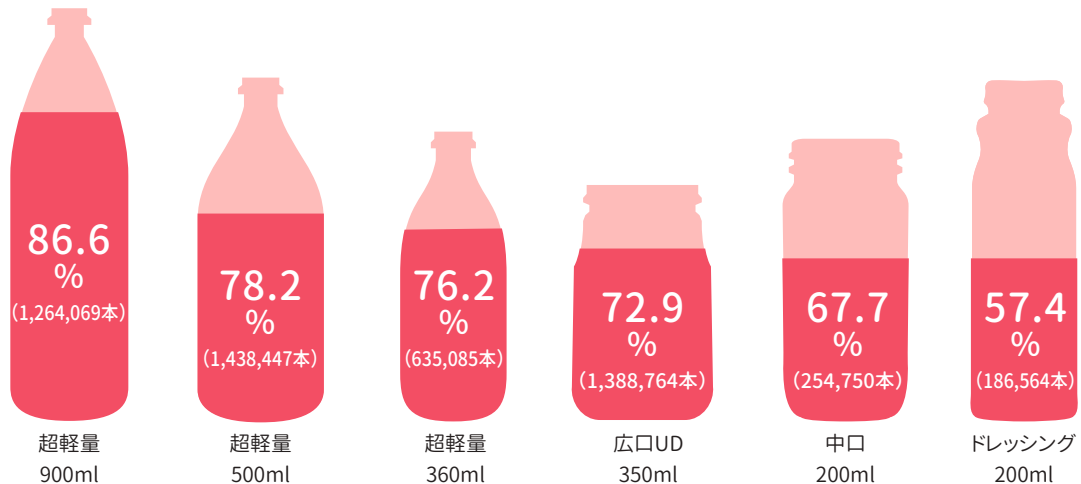


・2015年度 リユース/リサイクル回収率



2015年度実績

・Rびん種類別回収率



2015年度実績

グリーンシステムとRびん

GARBAGE REDUCTION FOR ECOLOGY AND EARTH'S NECESSITY の頭文字の略称で、地球生態系のためのごみ減量 (GREEN) システムという意味です。

生活クラブは1994年から容器包装ごみを減らすためにびん容器を数種類のRびんに統一し、回収・再使用を始めました。現在は用途に合わせた6種類のRびんを、66品目の消費材で使用しています(2016年6月現在)。

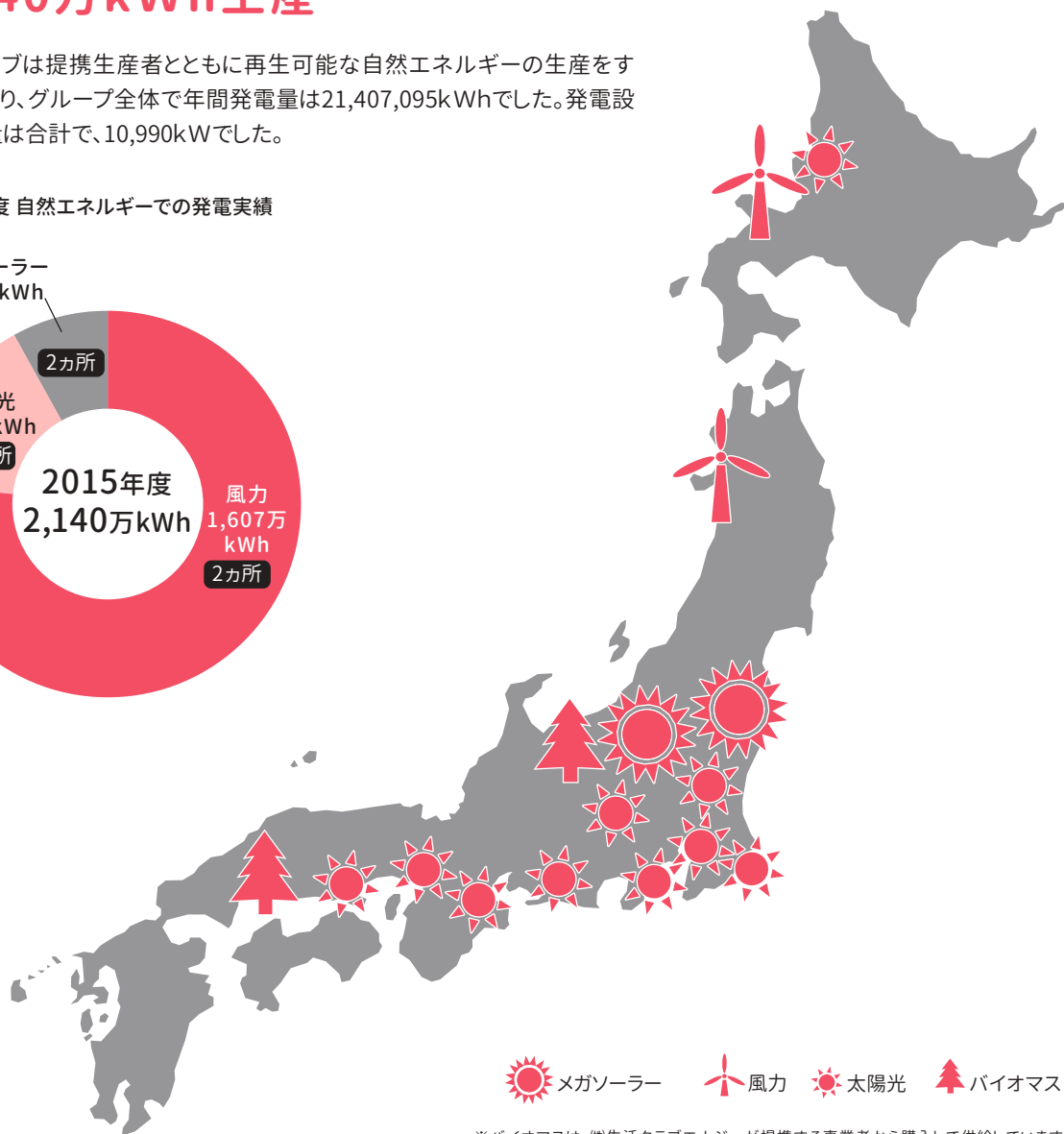
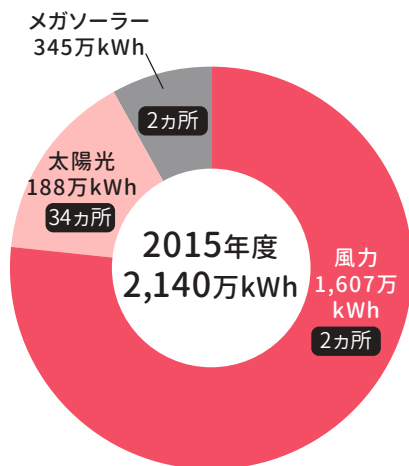
長期的な視点を持ち、エネルギーのムダ使いを積極的に減らします。
消費者と生産者がチカラをあわせ、安全で持続可能なエネルギーの生産・流通に取り組みます。

創エネ

再生可能な自然エネルギーを 2,140万kWh生産

生活クラブは提携生産者とともに再生可能な自然エネルギーの生産をすすめており、グループ全体で年間発電量は21,407,095kWhでした。発電設備の容量は合計で、10,990kWでした。

・2015年度 自然エネルギーでの発電実績



原発のない社会をめざして

生活クラブは2011年3月の東京電力福島第一原発事故以前から「六ヶ所再処理工場」に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク(阻止ネット)に参加するなど、核燃料再処理をふくむ脱原発運動をすすめてきました。2015年9月16日(水)に阻止ネットが衆議院第一議員会館大会議室で開催したシンポジウム「2030年 六ヶ所再処理工場のゆくえ 私たちの原子力政策」には、生活クラブから50名が参加しました。



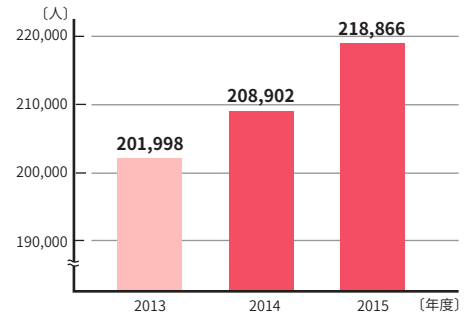
地域の中で安心して子育てや介護ができる仕組みづくりに取り組みます。
おたがいにたすけあい、学びあい、支えあう活動をひろげます。

エッコロ制度

ひろがる組合員どうしのたすけあい

「エッコロ制度」は生活クラブ独自のたすけあいの仕組みです。制度内容は各地の生活クラブによって異なりますが、組合員どうしが「お互いさま」の気持ちでたすけあうという趣旨は共通です。
2015年度にエスコープ大阪、2016年度は都市生活で新たにエッコロ制度が始まり、現在、15地域の生活クラブで実施されています。

・エッコロ制度への加入組合員数



エッコロマーク

エッコロのマークには、困った時に手を差し伸べてたすけあうという想いが込められています。一見かわいいウサギに見えますが、逆さにしてみると両手が図案化されています。

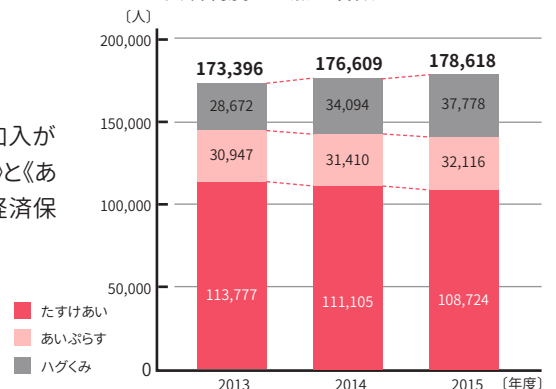


共済制度

ふえる加入者 生活クラブ共済ハグくみ

「ハグくみ」は生活クラブオリジナルの共済で2013年から各地で加入が始まり、2014年度には加入者が3万人を超えました。《たすけあい》と《あいづらす》は全国の生協組合員でつくるCO・OP共済で、手厚い経済保障が特徴です。

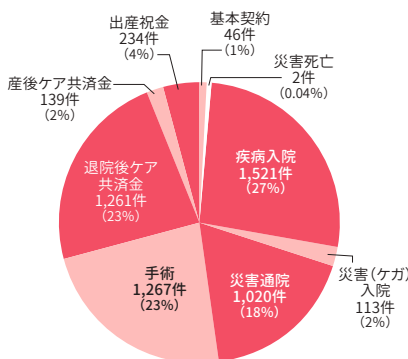
・共済制度への加入者数



共済事業

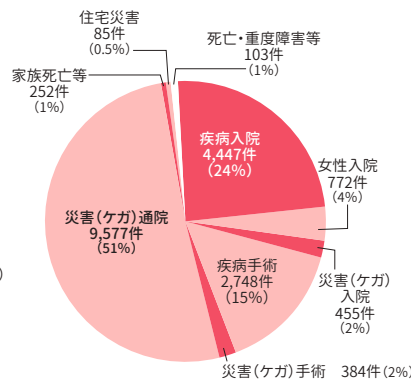
2015年度共済事業の概況

・生活クラブ共済ハグくみ
2015年度事由別支払件数
(※神奈川元受分と共済連元受分の合算)



支払件数5,603件
支払共済金額144,078,500円

・CO・OP共済《たすけあい》
2015年度事由別支払件数



支払件数18,823件
支払共済金額692,340,900円

・生活クラブ共済連2015年度決算

経常収益(共済掛金、手数料等)A	1,645,502千円
経常費用(支払共済金、人件費、物件費等)B	1,164,385千円
経常剰余金=A-B	481,117千円
当期剰余金	386,800千円
当期末処分剰余金	464,658千円

地域の中で安心して子育てや介護ができる仕組みづくりに取り組みます。
おたがいにたすけあい、学びあい、支えあう活動をひろげます。

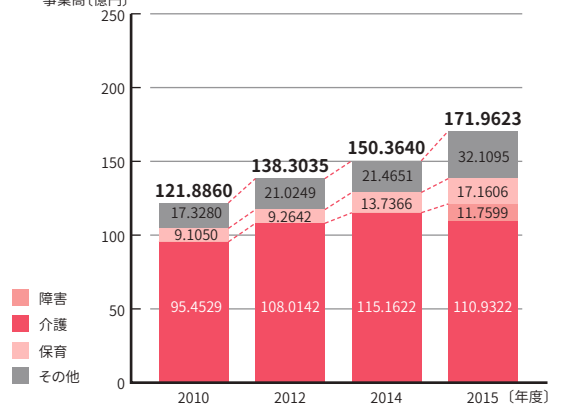
福祉事業

生活クラブグループの福祉事業の規模は171億円

各地の生活クラブは自ら介護や保育の事業を行ったり、社会福祉法人やNPO法人を設立して地域に根ざした福祉事業を実践しています。生活クラブグループの福祉事業の総事業高は171億円におよび、ひとつの法人グループとしては日本でも屈指の規模となっています。

⇒事業内容ごとの2015年度実績は13ページをご覧ください。

・生活クラブグループ福祉事業の推移



生活クラブ安心システム連合が設立されました。

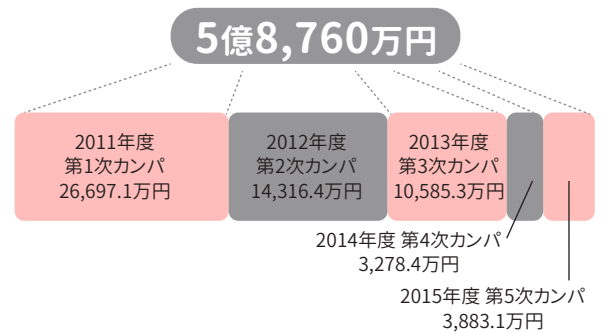
2015年7月8日、「生活クラブ安心システム」実践の基盤となる生活クラブ安心システム連合の設立総会が行われました。
設立に向けて、生活クラブを母体とする3つの社会福祉法人、社会福祉法人悠遊(東京)、社会福祉法人いきいき福祉会(神奈川)、社会福祉法人生活クラブ風の村(千葉)、そして生活クラブ共済連の4団体が連携し準備をしてきました。
高齢者や地域のあらゆる人が自分らしく暮らせるよう活動をひろげています。



復興支援

組合員のカンパ活動で東日本大震災の復興支援

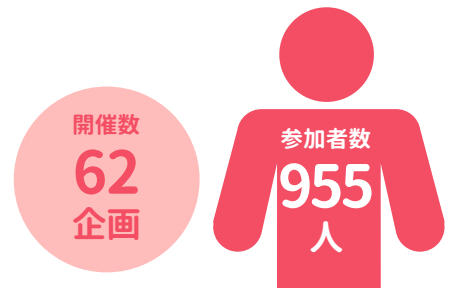
2011年度からの5次にわたるカンパでは、総額5億8760万3987円が組合員から寄せられました(2016年3月末現在)。
2016年度も第6次カンパを募っています。



保養活動

リフレッシュツアーはのべ955人が参加

2011年度から各地の生活クラブが福島の子どもや家族を招いて開催しているリフレッシュツアー(保養活動)。2015年度までの5年間で、62企画が実施され、のべ321家族955人が参加しました。
2015年度からはツアーに招待するエリアを栃木県北部までひろげて、開催しています。



生活クラブは一人ひとりが主役です。組合員に関わる情報は大きなことから小さなことまですべて公開・共有します。その情報をもとに、自分たち自身で考え、決め、実行します。

自主
監査

生活クラブならではの 「おおぜいの自主監査」を52回開催

生活クラブでは国の基準より厳しい独自基準を生産者と共に創り運営しています。

「おおぜいの自主監査」は、組合員が生産現場を訪問し製造環境や工程を確認して、生活クラブの自主基準への到達点をチェックする活動です。監査結果は各地の生活クラブの機関紙で広報され、連合会のホームページで公開されています。2015年度は52企画が実施され、385人の組合員が参加しました。

2015年度
おおぜいの自主監査

開催数

52企画

参加組合員

385人

利用者の目線で製造現場をチェック

組合員が行なう「おおぜいの自主監査」には、食品添加物や農薬の削減、せっけんの使用など、組合員一人ひとりのこだわりの目線が活かされます。また監査によって、消費材がつけられた背景や生産者の努力を知ることができ、組合員が共同購入に参加する意義を再認識する機会にもなっています。

2015年9月に全国農協食品㈱で行なわれた生活クラブ大阪によるクワトロプロマジヨピッツアの「おおぜいの自主監査」



生産者
交流会

さかんな生産者交流会 2015年度は 15万4,300人が参加

組合員が消費材の生産現場を訪問したり、生産者が各地の生活クラブを訪れて組合員と交流する生産者交流会がさかんに行なわれています。組合員にとって生産者から直接情報を得られる、生産者交流会は貴重な機会です。

・2015年度生産者交流会開催実績(のべ数値)

開催数

1,944
企画

参加生産者

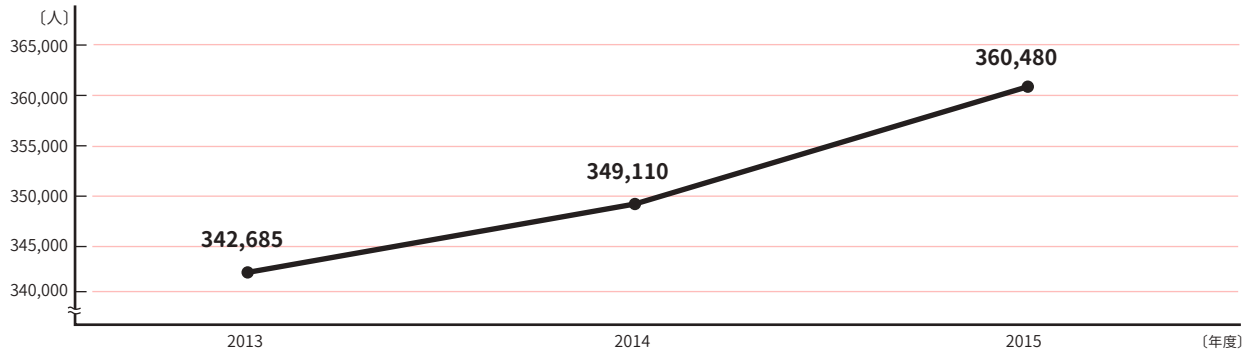
2,175
団体

参加組合員

**15万
4,300**人

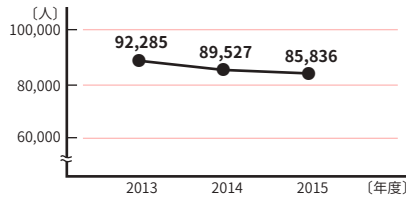
[DATA 1 数字で見る共同購入事業の動向と推移]

● 組合員数の推移 (全業態)

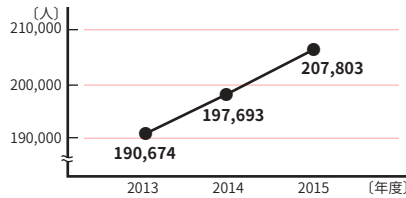


● 業態別組合員数の推移

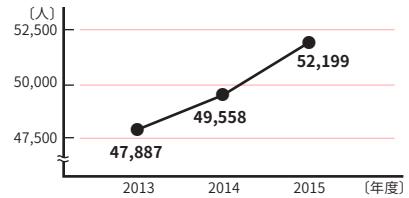
・組合員数の推移 (班)



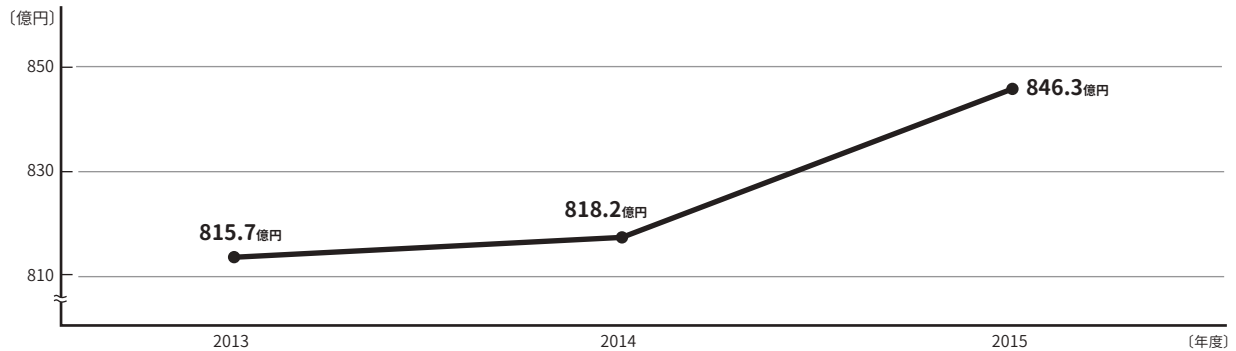
・組合員数の推移 (個別配送)



・組合員数の推移 (デポー)

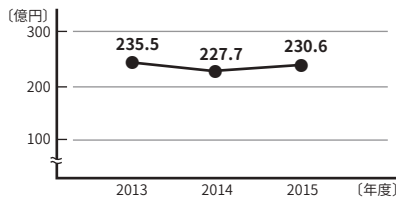


● 供給高・供給実績 (全業態)

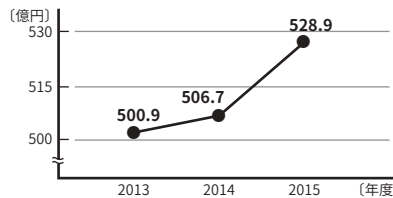


● 業態別供給高・供給実績

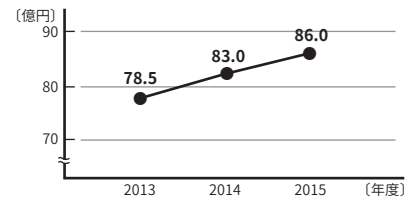
・供給高／供給実績 (班)



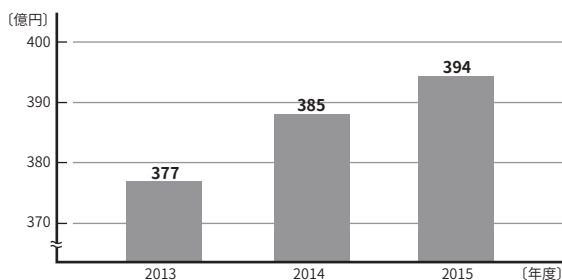
・供給高／供給実績 (個別配送)



・供給高／供給実績 (デポー)



● 出資金推移



※業態別組合員人数について

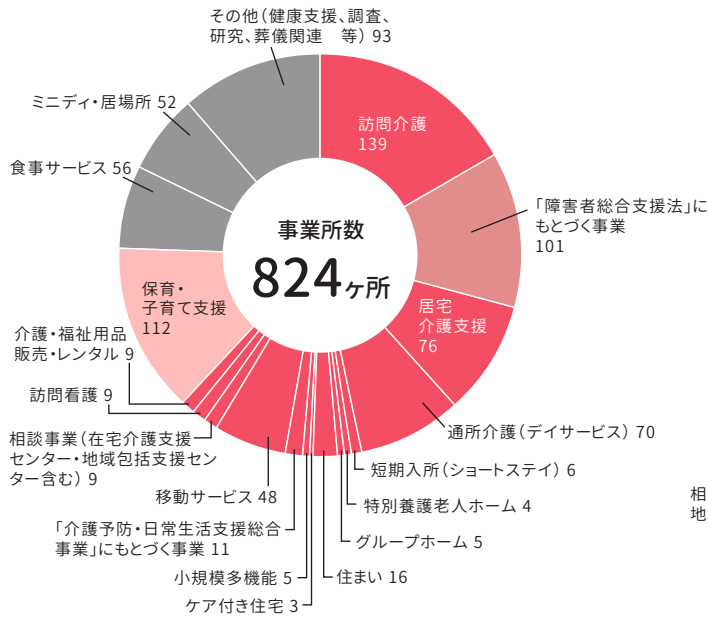
■班: 東京4単協・神奈川5単協・埼玉・千葉・長野・北海道・茨城・山梨・岩手・静岡・愛知・栃木・青森・やまがた・群馬・ふくしま・大阪・京都エルコープ・奈良・滋賀・エスコープ大阪・都市生活。

■個別配送: 東京4単協・神奈川5単協・福祉クラブ・埼玉・千葉・長野・北海道・茨城・山梨・愛知・やまがた・ふくしま・大阪・京都エルコープ・奈良・滋賀・エスコープ大阪・都市生活。

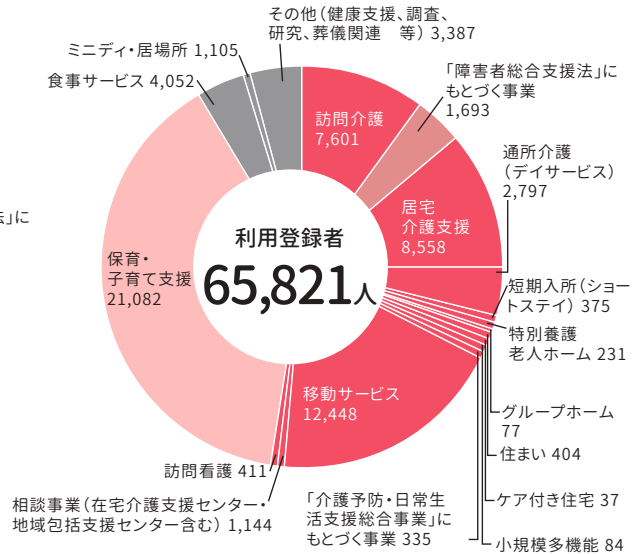
■デポー: 東京4単協・神奈川5単協・千葉(大阪・エスコープ大阪のミニ店舗を含む)。

[DATA 2 2015年度生活クラブグループの福祉事業の規模とひろがり]

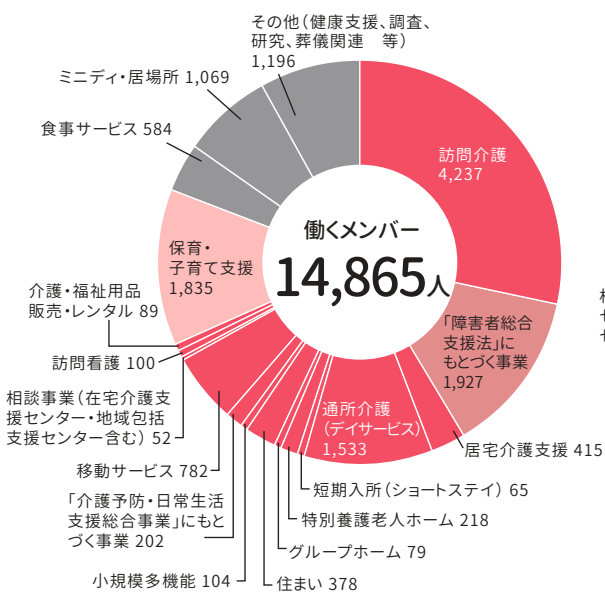
● 事業所数



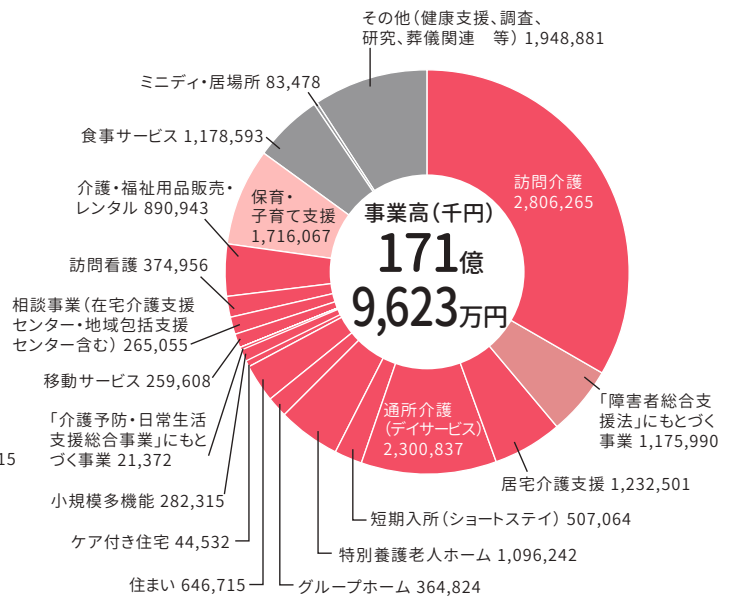
● 利用登録者



● 働くメンバー



● 事業高



■ 介護 ■ 保育 ■ 障害 ■ その他

